

2024年度 織田ファッション専門学校 自己評価報告書

作成日 2025年4月1日

はじめに

2024年度の事業計画に対して、その進捗や達成度を確認する観点にて自己点検評価を実施した。
ただし、事業計画の内容の多くは単年度、短期的なものではなく、複数年に亘る長期的な視点での目標、計画である場合が多い。それらに関しては到達という観点ではなく、取り組みに対して真摯であったかどうかを評価の軸としている。

※尚、評価は4～1の数値にて表す。適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切・未実施…1

教育理念に沿った理想的な学校とするべく、その過程における当年度の1歩について以下に評価を報告する。

学校の理念と教育目標

理念 社会に必要とされる人材を育てる学校、そして学生が明るく楽しく学ぶことができる学校を目指す。

目標 ・専門知識と技術力を高め、社会に貢献できる人材を育成する。

・学生一人ひとりの個性を尊重し、将来の夢を実現できるように導く教育を実践する。

・時代の社会環境に応じてフレキシブルに対応し、就職を意識した実践的な教育を行う。

重点的に取り組んだ目標及び計画等

・人間力の向上を目指し、学生の考える力を鍛える。

・クオリティーを追及して基本を再認識し、技術を継承する。

・ファッションビジネスの現場で即戦力となるよう実践的なカリキュラムの構築。

1. 教育理念・目標

評価項目	評価	評価内容	課題
理念・目標・育成人材像は、定められているか。	4	定められている。	時代や社会情勢の変化も鑑みながら必要により改訂を検討していく必要がある。
学校における職業教育の特色が明確になっているか。	4	学生に対しオリエンテーションで説明し、周知している。	業界で求められる人材像の変化をとらえながら、職業教育に必要な内容を検討していく。
各学科の教育目標・育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	各学科は今の業界のニーズに向けて具体的に取り組んでいる。	外部講師や教育課程編成委員会を通じて、業界のニーズを知り、教育目標を決めていく。
学校の教育理念やポリシーは学内外に広く公表されているか。	4	学校案内、募集要項、WEBサイト等に明記し、公表している。	次年度も同様に公開していく。
コメント 特になし。			

2. 学校運営

評価項目	評価	評価内容	課題
教育理念・目標に沿った事業計画が定められているか。	4	定められている。	時代に沿った事業計画の見直しも必要。
外部関係者の評価を有効に活用できたか。	4	職業実践専門課程に係る教育課程編成委員会からの意見をカリキュラム見直しの参考にした。	引き続き、客観的第三者の意見を教育内容に反映させていく。
ファッション業界で活躍中の卒業生の活用は促進できたか。	4	現場で活躍している卒業生の話を聴ける機会を多く設けた。	引き続き、学生が生きた現場の声を聴ける機会を多く用意できるように努める。
学生のニーズは把握できたか。	4	年度末、学生アンケートを実施。多面的な設問を通じて学校への具体的なニーズを調査した。	学生アンケートの結果を次年度の事業計画へと反映させる検討の仕組みを構築する必要がある。
教職員の人事評価は適正に行われているか。	4	法人の人事評価制度により、適正に行われている。	評価結果を教職員のスキルアップにつなげられるような活用が課題である。
情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	ワークフローシステム等によりペーパーレス化が進んでいる。	引き続き日常業務の合理化を図るべく、検討・提案していく。
コメント			
定期的に外部から意見を聞く機会を設けることにより、具体的に改善すべき事項が見えてきているため、今後は計画的にカリキュラムに取り入れていきたい。外部講師に関しても本校の勤務が長くなるにつれて学生のニーズを把握していただいている傾向があり、積極的に提案をしてくださるので、今後も企業との関わりを重視してよりニーズに沿ったカリキュラム内容を検討していきたい。			

3. 教育活動

評価項目	評価	評価内容	課題
教育理念に沿ったカリキュラムになっているか。	4	なっている。	時代に応じて随時見直しは必要である。
教育カリキュラムは体系的に編成されているか。	4	毎年修正を加えながら体系的にカリキュラムが編成されている。	この姿勢を継続していく。
キャリア教育・実践的な職業教育の視点で、カリキュラムや教育方法の見直しがなされているか。	4	企業とのつながりが強化されつつあり、今後も実践的な職業教育を継続していく土壌はできている。	より深められるように努める。

実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか。	4	企業コラボ・インターンシップを通して実践的な職業教育を実施している。	これらを質・量ともに充実させていくことが課題である。
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	4	成績評価・単位認定の基準は学則に記載されており、明確になっている。	引き続き適切に運用していく。
授業に関する学生の意見や要望を吸い上げているか。	4	年度末に学生を対象とした授業アンケートを実施している。	改善できる箇所を受け止め、より良い授業内容への改善に繋げたい。
教員の研修・自己啓発は促進できたか。	4	毎年自己研修目標を設定している。年度初日に研修発表をし、校長より評価をいただいている。外部研修に積極的に参加し自己啓発を行っている。	この姿勢を継続していく。
コメント 専門学校にとって「実践的な教育内容」が要であることを再認識し、今後も引き続き各課程の方向性を再検討し、教員一人一人が目標を持ち各自がさらに能力を伸ばし教育の質を高めていきたい。			

4. 学生支援

評価項目	評価	評価内容	課題
生活支援の充実化は図れたか。	4	各種公的奨学金制度を案内し、急な家庭の事情の変化などにも相談に乗っている。経済的な理由で専攻科に進学出来ない学生に対して特待生制度を活用している。	家庭の事情によりアルバイトに多くの時間を割く学生も多く、学校との両立が出来る様に学生と密にコミュニケーションをとることが求められる。
教育支援の充実化は図れたか。	3	iPadの活用により、書類の配布、課題の提出などオンラインの活用を行っている。	経年により機能低下している機器もある為、機器の刷新の検討の余地がある。
就職支援の充実化は図れたか。	2	卒業学年の担任が就職指導を行っているが、例年よりも就職実績が低い結果となった。	技術職は求人数が特に少ない状況なので、新規就職先の開拓が必要。
退学率の客観的数値(前年度比較)は改善したか。	2	退学率は改善されず横ばいである。理由としては、入学の動機づけが低い1年生の退学が目立った。精神的に不安を抱えている学生も多い。	どうやって学習に対する意識を高めて、メンタルケアをしていくかを検討する。

心理検査(ハイパーQU)から得られた情報は適切に活用できたか。	4	検査結果から個々の学生の満足度が確認できるため、個別の配慮ができています。	情報量が多いため、繰り返し内容を確認して見直し活用してゆく必要がある。
学生のメンタルヘルス対応は積極的に取り組めたか。	3	専用のメンタルヘルス相談窓口を設けている。さらに少人数クラスで担任制を取っており、一人一人と話をする機会を多く持つようにしている。	中野区が運営している若者支援施設を利用したが、教員の負担が軽減されるような内容ではなかった。引き続き学外の相談窓口もを検討したい。
卒業生への支援体制はあるか。	4	同窓会費用で卒業生の活躍を支援している。卒業生が転職や仕事についての相談に来た際には、相談や求人を紹介している。	卒業生との繋がりをさらに強化する為のシステム整備を進めたい。
家庭との連携は適切だったか。	4	欠席が続く場合は家庭に連絡をし、協力をお願いしている。	家庭への連絡は、夜遅い時間や休日しか取れない場合が多い。連絡がつかないことも多く、その際の対策を検討したい。
コメント 心の問題を抱えている学生への対応は大変難しい。しかし中学、高校時代に問題を抱え毎日登校していなかった学生が、目標をもって本校に入学し、その後は楽しんで通学している学生も少なくない。精神的に不安定になる学生もいるが、話を聞くことで解決できる場合もあり、本校の強みでもある少人数制を活かして一人一人としっかりコミュニケーションを取っていきたい。			

5. 教育環境

評価項目	評価	評価内容	課題
施設・設備は、教育の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	実習機器は定期的に点検・整備をしているほか、突発的な故障にも迅速に対応できている。	引き続き適切に管理していく。
施設・設備の更新は適切に計画されているか。	4	減価償却期間や機器のライフサイクルを考慮して更新が計画されている。	ICT機器の進化のスピードと、整備サイクルとの調整が課題である。
コメント 必ずしも「最新」を追うのではなく、あくまでも「現場」を意識した実習設備を整備・維持したい。一方で生成AIなど、次代のスキルを学べる環境も整えていきたい。			

6. 学生募集

評価項目	評価	評価内容	課題
数値目標(入学生数90名)は達成できたか。	2	オープンキャンパス参加者数、取り込み率ともに減少し、目標数の65%程度に留まった。	次年度は目標数を達成できるよう様々な観点で見直しを行う必要がある。
OC参加者の増加は達成できたか。	2	昨年と比較すると10%程度減少した。	ガイダンス数の減少により高校生と接触する機会が減少した。接触できる機会を増やす必要がある。
OCからの取り込み率は向上できたか。	2	昨年と比較し、取り込み率が減少したが、毎回在校生がとても良くOC参加者と接してくれ、良い雰囲気作りで効果的な役割を担ってくれている。	OCの参加者が他校と迷っているときに、決定打となるような魅力を考え伝える必要がある。
学生募集における学校の訴求ポイントについて広報と協議の上で決められたか。	3	今年度新たに各科で売りに出来る内容を積極的に発信していくため、広報と話し合い広めている。	引き続き、もっと本校の魅力を様々なチャンネルで見てもらえるような工夫を検討していく。
広報物の訴求の一貫性を図れたか。	4	毎月送っているDMの内容を少しずつ変化させより多くOCに参加してもらえるよう取り組んでいる。	効果的なDMの見え方を今後も検討していく必要がある。
広報物の制作にあたり、学校と広報とで意見交換が図られたか。	4	広報担当者は毎朝朝礼に出席し校内の様子を知り、度々職員室に訪れて情報共有やお互いの問題点を話し合っている。	広報物確認の時間に余裕を持てるように広報と連携を図りたい。
広報担当スタッフとの連携を強化できたか。	4	OC当日の朝礼で教員全員で参加者の情報を共有し、次の日の朝礼で結果を報告している。その都度問題点を解決している。	もっと学校の魅力が発信できるように話し合い共有してゆきたい。
OC時の参加者対応スキルの向上は図れたか。	4	参加者への対応は学生がマンツーマンで指導し、グループ分けして教員が見守っている。学生は参加者指導のための練習をし、当日は自信をもって対応してくれている。	学生リーダーが毎回全体を回して頑張ってくれているが、もっと元気よく自分から言葉を発信してゆけるように指導してゆきたい。

OCの結果等の分析や、コース内容のブラッシュアップ等について学校と広報とで十分な意見交換ができたか。	4	広報と毎回参加者のアンケート結果を共有しそれをもとに次回のOCの参考にしている。OCの内容で参加者の増員が見込まれるので時期と内容を話し合っている。	OCの参加者はほとんどが高校生なのでもっと高校生の目線になって内容を検討していく必要がある。高校生の求めているものは何かリサーチしてゆきたい。
留学生受入れについて適切な体制が整備されているか。	4	留学生担当職員を配置し、入学相談や入管手続き等、適切な対応をしている。	留学生の満足度が高められるように引き続き努める。
SNS等、学校の認知PRは適切に行えたか。	4	インスタグラムを適宜更新し、外部の人々に学校を知ってもらえるように努めている。フォロワーの増加にも繋がっている。	今後もこの姿勢を継続していきたい。
コメント 本学を知らない高校生にもっとホームページやSNSを見てもらい、さらに本学へ足を運びたいと感じてもらうために、広報の仕方を検討していく必要がある。今後どうやって本学の良さを外部に発信できるかさらに検討してゆきたい。			

7. 財務・学校経営

評価項目	評価	評価内容	課題
経営感覚の教職員間での共有は図れたか。	3	全員で学校の収支状況を共有し状況が悪いことは全員自覚している。学生数を増やし支出を抑える意識を持っている。	外にアピール出来る新しいことを如何に支出を抑えて、かつ教育の質を下げない様に行うか考える必要がある。
授業料等、学納金は妥当か。また適切に見直しを行っているか。	3	学生募集にも大きな影響を及ぼす学納金については慎重に検討を重ねている。	簡単に値上げに踏み切れない社会情勢が課題。
財務改善への取り組みは推進できたか。	4	決算後に管理職に対して数値の説明を行った。管理職は必要に応じて他の教職員と情報の共有を行った。	具体的な収支改善への取り組みについて、教職員から主体的な提案があるような空気の醸成に努めたい。
コメント 物価高騰が一段と進行しているが、容易に学納金に転嫁できないのが実情であり、学校経営の厳しさは一段と増している。学生数を確保することでコストパフォーマンスを高めるように努める。			

8.法令等の遵守

評価項目	評価	評価内容	課題
コンプライアンス意識を再確認できたか。	4	「コンプライアンス規程」を明文化し、教職員間で共有している。	時代の変化に応じて改訂し、共有を図る。
自己点検・評価の結果を公開しているか	4	WEBサイトで公開している。	今後も適切な情報公開に取り組んでいく。
コメント 今後も財務情報や自己評価報告書等、学校情報について公開し、適切な学校運営を継続させていく。			

9.社会貢献・地域貢献

評価項目	評価	評価内容	課題
地域や自治体と連携し、イベント等の企画に積極的に参加しているか。	3	学園祭にて学生作品の販売を行い、地域の方々に喜んでいただいた。	今後も機会があれば、積極的に参加したい。
コメント 特になし。			

おわりに

本校の各課程は職業実践専門課程でもあるため、教育課程編成委員会等を通じて得た意見をもとに、学生達が時代に合わせた能力を身に付けられるように、常にカリキュラム改善を検討している。

今後も業界に必要とされる人材育成のため、教職員が協力し合い、学生募集・教育・就職・卒業と学生のための教育環境作りに邁進する。